

ライオンのメス“プリンセス”の死因について

2026年3月29日(日)朝に亡くなった、ライオンのメス“プリンセス”の死因について報告いたします。

死因は解剖検査により急性肺炎と全身の循環障害が認められました。治療経過として、甲状腺機能低下症により衰弱した状態で肺炎を併発したため、通常の抗生物質等による治療を行いました。死亡後の検査により抗生物質に耐性のある細菌が確認されましたので、これによる肺炎のため死亡したものと推測されました。

これまでの経過

ライオンのメス“プリンセス”は2016年に来園しました。とても好奇心が旺盛なメスライオンで、石ころや雪玉で楽しそうに遊ぶ姿がとても印象的で多くの来園者に愛されました。

“プリンセス”は先代のオス“キング”との繁殖を数年にわたり試みてきましたが、相性は非常に良かったものの、妊娠出産にいたりませんでした。その後2021年に“キング”が亡くなり、2022年に群馬サファリパークよりオス“レグルス”が来園することになりました。<https://zoomo.co.jp/2022/10/12/2675/>

“プリンセス”は出産の経験がなく、その当時9才での初産は難産になるリスクがあるため、2頭による繁殖は計画しないこととしました。当面の間“プリンセス”と“レグルス”の2頭での展示と決め、“プリンセス”は“レグルス”と柵越しに過ごしてきました。柵越しでも2頭はとても仲が良く、非常に慎重な“レグルス”が来園当初に展示場に出る練習をする時などは“プリンセス”がいたことで助けられたことが多々ありました。

“プリンセス”は2025年1月下旬より右前肢をかばう様子と動作緩慢の症状が定期的に見られたため、痛み止めによる治療を行い、5月中旬には症状が見られなくなりました。その後、麻酔下で採血とレントゲン検査した結果、頸椎の変形と甲状腺機能低下症を確認しました。冬期間の関節の痛みを少しでも緩和できるようにグルコサミンを投与し経過を観察していました。治療のためにトレーニングにも取り組み、起立、伏せ、静止などいろいろな動作をすぐに覚えてくれました。

2026年の1月下旬より、動作緩慢、食欲不振の症状が度々見られるようになったため、寒冷環境での放飼は見合わせ、当初は痛み止めによる治療を行いながら経過をみていましたが回復が見られませんでした。そのため2月中旬より甲状腺機能低下症の治療に切り替え、ホルモン剤による治療を開始しました。併せて室内の保温、敷き藁等で室内環境の改善を図りました。治療開始時は一時的に良化した姿をみせてくれていましたが、元気や食欲は日によって波があり、徐々に削痩し、寝ていることが多くなりました。3月27日より、ホルモン剤投与に加え、抗生剤、ステロイド剤による肺炎治療を開始しましたが、3月29日朝(8:15)死亡を確認しました。

